

山口情報芸術センター [YCAM] 展覧会

オロン・カツツ+イオナット・ズール+スティーブ・ベリック

PROJECT MRT

Natureless Solution / 太陽と土と糞^{くそ}から切り離れたテクノロジーの再考

YCAMとのコラボレーション

2025年10月11日(土) - 2026年2月23日(月・祝) 10:00~19:00 入場無料

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ、中庭、2階ギャラリー

国際的に活躍する、バイオ・アートの先駆者

オロン・カツツらによる新作インスタレーションを公開！

山口情報芸術センター [YCAM] では、オーストラリアを拠点に活動するオロン・カツツ、イオナット・ズール、スティーブ・ベリックによる新作インスタレーションを公開する展覧会「PROJECT MRT — Natureless Solution (ネイチャーレス・ソリューション) / 太陽と土と糞^{くそ}から切り離れたテクノロジーの再考」を開催します。

オロン・カツツとイオナット・ズールは、組織培養工学を基盤とするバイオ・アートの先駆者として、国内外で実験的な作品を発表してきました。近年は、自然要素を人工的な代替物に置き換える農業技術^{アグテック} (AgTech) を主題としたプロジェクトにも取り組んでおり、本展ではこの継続した研究の過程をパフォーマンスで実験的なインスタレーションとして公開します。会場には相互に連携し循環する食料生産装置を設置し、会期中の実験的パフォーマンスを通して、「Natureless Solution (自然を介さずに成立する食の未来)」へ向かう私たちの道筋を、アートの視点から批評的に探究します。

本展は、テクノロジーと自然、倫理と実践が交差する地点を見つめ直し、食の未来を再考するきっかけとなるでしょう。ぜひこの機会にご参加ください。



写真: Daniel James Grant 提供: アーティスト

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

アグテック

農業技術を活用した、持続可能な循環システムを探るプロジェクト



左から、スティーブ・ベリック、イオナット・ズール、オロン・カツ
提供：アーティスト

テクノロジーの進展は、私たちの生活に直結する「食」にも大きな影響を与えており、食料生産から流通、調理法に至るまで、さまざまなプロセスにおいて変化が加速しています。メディア・テクノロジーにまつわる知識や経験を、地域課題や資源に結びつける取り組みを重視しているYCAMにとっても、「食」は最も身近で重要な題材であり、2021年には「食と倫理リサーチ・プロジェクト」を始動し、2023年には、その成果を発表する展覧会を開催しました。

オロン・カツとイオナット・ズールは、科学と芸術の境界を横断する実験的な取り組みを行うバイオ・アーティストで、特に生体素材を用いた芸術表現に先駆的に取り組んできました。2000年には、西オーストラリア大学内部に、世界初のバイオ・アート研究所「SymbioticA (シンビオティカ)」を設立し、さまざまな芸術家や科学者と共同で研究・制作を行ってきました。近年はスティーブ・ベリックと共同で、食料生産分野での農業技術を主題としたパフォーマティブな実験的プロジェクトをおこない、その様子を収めた映像作品がメディアアートの世界的権威を持つ表彰 Prix Ars Electronica 2023で優秀賞を受賞*するなど、高い評価を得ています。本展では、こうした近年の研究をYCAMとのコラボレーションにより深め、その経過を新作インスタレーションとして展開します。さらに地域の生産者や研究者とも連携し、会期間中に実験的かつ循環型の食料生産を実践。その過程で得られた知見や成果を公開し、共有することで、食に関する倫理・技術・社会の交差点に対して問いを投げかける試みです。

■ オロン・カツ | Oron Catts

西オーストラリア大学 (UWA) 人間科学部「SymbioticA: The Centre of Excellence in Biological Arts」の共同創設者兼ディレクターであり、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートでコンテスタブル・デザインの教授を務めた。イオナット・ズールと共にTissue Culture & Art Projectを設立。ハーバード大学医学部の組織工学・臓器製作研究所の研究員(2000~2001年)。

■ イオナット・ズール | Ionat Zurr

西オーストラリア大学 (UWA) デザイン学部の美術学科長、SymbioticAのアカデミック・コーディネーター。アーティスト、研究者、キュレーター、講師であり、ロイヤル・カレッジ・オブ・アートのデザイン・インタラクションの客員講師でもある。1996年、オロン・カツとともにTissue Culture & Art Projectを設立し、生きた人工組織を使ったアート制作のパイオニアである。アートと生物学の学際的プログラムである理学修士課程(生物学アート)を創設。

■ スティーブ・ベリック | Steve Berrick

コードを駆使し、パフォーマンスやインスタレーションのための高度にテクニカルなインタラクティブ・システムのデザインを専門とする。彼の作品は、観客をインタラクションの中心に置き、しばしば触覚的な創造的プロセスを促進し、それをコラボレーティブなデジタル・プレイグラウンドに反映させる。ロボットデザイン、テクノロジーデザイン、クラウドソースによる場所の活性化を可能にするソフトウェアで賞を受賞している。

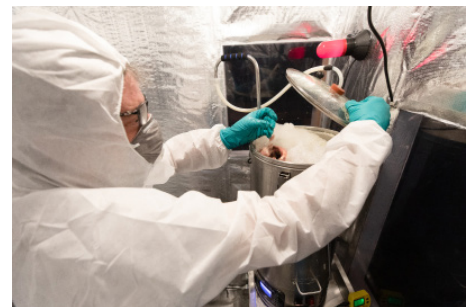
* 「SymbioticA (シンビオティカ)」が2022年から実施するパフォーマンス的かつ継続的な実験プロジェクト「3SDC (Sunlight, Soil and Shit)」の経緯を追ったドキュメンタリー『Sunlight: YES』が、人工知能&ライフアート部門で「Award of Distinction」を受賞した。

食料生産システムの未来を問う、実験型パフォーマンス & インスタレーション

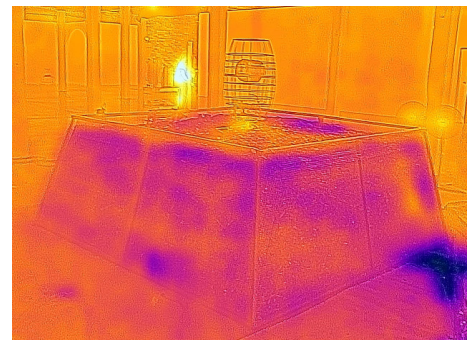
本展のタイトルにある「MRT」は「メタボリック・リフト・テクノロジーズ (Metabolic Rift Technologies)」の略です。カール・マルクスが提唱し、そして、アメリカの社会学者ジョン・ベラミー・フォスターが現代に発展させた、人間社会と自然との間に生じる構造的な断絶を表す概念「メタボリック・リフト」を参照しています。これに「技術 (Technologies)」の視点を重ね合わせた造語が「MRT」です。YCAMとオロン・カツら3人のアーティストによる実験的取り組み「PROJECT MRT (プロジェクト エム・アール・ティー)」の経過を公開する本展では、会場を科学的な実験や研究を行う「ラボ」にみたくて、微生物が発酵する際の熱を活用したコンポストインキュベーターやハイドロポニックス (水耕栽培) 装置など、AgriTechを応用した循環型の食料生産装置を複数設置し会期中に実験的な運用をおこないます。また、各装置に取り付けたセンサーが計測した環境データを監視できるブースを会場内に設置し、分解効率や生態系のバランス、最適な環境条件を評価します。会期中は、ハンズオン形式のワークショップやツアー形式のイベントなど、多彩なプログラムを実施。展覧会テーマを体系的に体感できる構成となっています。

自然を介さず成立する食の未来は可能か

会場では、地域の教育機関や研究者、また生産者の指導／協力のもと、土壌を使わない栽培技術で植物を育てるハイドロポニックス装置やソーラ・パネルシステムといった、自然資源を代替し、食料生産を可能にする装置を設置します。そのほか、水産養殖 (Aquaculture) と水耕栽培 (Hydroponics) を組み合わせて、魚と植物を同時に育てること (魚菜共生) を可能にする、アクアポニックス・システムやマウスの筋細胞由来の人工肉を培養し、その養分を肥料に変換するための装置など、複数の技術を組み合わせ、会期中、これらを運用することで、持続可能かつ、「Natureless Solution (自然を介さずに成立する食の未来)」へ向かう私たちの道筋を考察します。



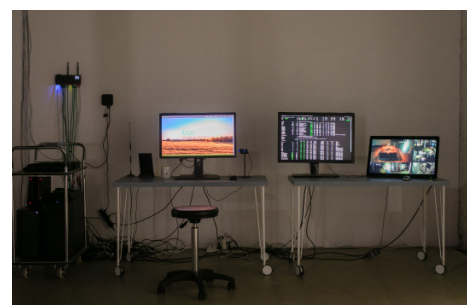
肉の成分を抽出するアルカリ分解装置



コンポストの発酵熱を可視化するサーモグラフィー

食糧生産環境を可視化するデータ監視システム

会場内の食料生産装置には、独自開発したセンサーを取り付けています。コンポストの分解中に発生する熱や、微生物の呼吸・発酵によって生成される CO₂ やメタンなどのガス濃度、生物飼育に関わる窒素循環データなど、様々な環境指標をリアルタイムで計測しており、分解効率や生態系のバランス、最適環境条件の監視に活用しています。会期中日々、データが収取されていく様子は、食料生産においてデータそのものが注目され、実態より優先される現状を批評しています。



写真提供：アーティスト

開催概要

オロン・カツ+イオナット・ズール+スティーブ・ベリック

PROJECT MRT

Natureless Solution

／太陽と土と糞^{くそ}から切り離れたテクノロジーの再考

YCAMとのコラボレーション

2025年10月11日(土)～2026年2月23日(月・祝) 10:00～19:00

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ、中庭、2階ギャラリー

入場無料

休館日: 火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)、
10月27日(月)主催: 山口市、公益財団法人山口市文化振興財団
後援: 山口市教育委員会
助成: 令和7年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業
共同開発: YCAM InterLab
企画制作: 山口情報芸術センター [YCAM]

キュレーション: レオナルド・バルトロメウス

関連イベント

■ アーティストトーク

2025年10月11日(土) 14:00～16:00

会場: スタジオA

参加無料 申込不要(先着順) 定員: 30名

登壇: オロン・カツ、イオナット・ズール、スティーブ・ベリック ※通訳有り

PROJECT MRT ガイドツアー

■ 切り離れたものを耕す(全5回)

2025年10月17日(金)※、11月16日(日)、12月7日(日)、2026年1月17日(土)、
2月21日(土) 各14:00-16:00 (※10月17日のみ、10:00～12:00)

集合場所: ホワイエ

参加無料 要申込(先着順)

定員: 各回20名 対象: 高校生以上

「自然と社会の分断」とは何かを考える展覧会のためのガイドツアーです。YCAMスタッフとともに展示をめぐり、多角的な視点からそのテーマを体験し、グループディスカッションを行います

■ ハンズオンワークショップ(全5回)

2025年10月12日(日)、11月15日(土)、12月6日(土)、2026年1月10日(土)、
2月22日(日) 各14:00～16:00

集合場所: ホワイエ

参加無料 要申込(先着順) 定員: 各回10名 対象: 中学生以上

10月12日(日)、12月6日(土)「センサーを作ってみよう」※2日間通し
11月15日(土)「水耕栽培装置を作ってみよう」
1月10日(土)「パーソナル・バイオテクノロジーを考えてみよう」
2月22日(日)「"美味しいデータ"とはなんだろう」

講師指導のもと、ハンズオン形式でおこなうワークショップです

■ 申込方法

ウェブサイト:

下記ウェブサイトを用意された申込フォームに
必要事項を記入のうえ、お申し込みください。www.ycam.jp

■ ギャラリーツアー

10月12日(日)、10月18日(土)※、10月19日(日)

11:00～12:00

11月2日(日)

14:00～15:00

11月30日(日)、12月21日(日)、2026年1月18日(日)、
2月22日(日)

13:00～14:00

集合場所: ホワイエ

参加無料 要申込 定員各回: 10名

YCAMスタッフとともに作品を鑑賞するツアー形式のイ
ベントです(※10月18日のみ英語で実施します)

関連上映

会期中、展覧会テーマにちなんだ映画の上映をおこない
ます(上映予定「うんこと死体の復讐」ほか)

会場: スタジオC

有料 ※作品ごとに料金は異なります

同時開催イベント

■ YCAM オープンラボ2025

2025年10月17日(金)、10月18日(土)、10月19日(日)、
各13:00～18:00

定員: 50名

集合場所: スタジオA 参加無料 申込不要(先着順)

言語: 日本語・英語 同時通訳有り

登壇: ケイリー・キャロップ(食料主権・食文化研究者)、羽
生雄毅(インテグリカルチャー株式会社)、メレディス・サト
ラー(Cal Poly SLO助教)、岩崎秀雄(早稲田大学教授)ほか